

学校教育目標

「生き生き学び、きらきら輝く子どもの育成」

重点目標（目指す子ども像）

- ①「かん」… 考える子
- ②「し」… しっかり話す子
- ③「ゆ」… 夢を広げる子
- ④「う」… うれしさを分け合う子

学校評価特集【後期】



2月にお願いしました保護者アンケートの集計ができました。また、同時期に児童アンケートや教職員自己評価も実施していますので、これらの結果をお知らせします。

本校では年間に2回の学校評価をおこなっています。子どもたちへの教育は保護者と学校との信頼関係が大切であり、学校は子どもたちの状況や保護者の思いをしっかり受け止め、教育の充実に努めています。今後とも子育てについての課題を共有しながら学校・家庭・地域の相互理解と連携が一層深まることを願っています。

1 保護者アンケートの結果

- ◎ 今回の回答数は221で回収率は41.2%でした。保護者の皆様のご協力ありがとうございました。今後もよろしくお願いいたします。
- ◎ アンケートの評価は、A「よくあてはまる」、B「おおむねあてはまる」、C「あまりあてはまらない」、D「まったくあてはまらない」の4段階の回答です。集計にあたっては回答総数から、E「分からぬ」等を除いた数を母数として%表示しました。
- ◎ 「保護者アンケート」の結果については「A（よくあてはまる）+B（おおむねあてはまる）」の割合を前期の状況と比較してお知らせいたします。（数字は%）

No.	項目	前期	後期
1	よく考え、正しく判断する子に育ってきている。	82.7	83.1
2	人の話を聞き、自分の思いをしっかり話す子に育ってきている。	76.0	75.3
3	目標に向かって努力する子に育ってきている。	79.6	77.7
4	友達のがんばりを認められる子に育ってきている。	88.0	86.4
5	子どもは、楽しく学校にいっている。	93.2	92.1
6	子どもは、友達と仲良く学校生活を送っている。	95.8	93.3
7	子どもは、自らすすんで学習しようとしている。	71.1	72.8
8	子どもは、授業が楽しく分かりやすいといっている。	80.2	78.7
9	こどもはルールを守って生活している。	72.4	71.6
10	早ね・早起きの習慣がついている。	85.0	85.6
11	朝ごはんをきちんと食べさせている。	98.7	97.6
12	すすんであいさつができるように働きかけている。	88.4	82.3
13	すすんでお手伝いができる。	71.7	71.3
14	時間をきめて家庭学習や読書をさせている。	56.0	54.3
15	テレビを観たりゲームをしたりする時間をきめている。	55.4	51.6
16	忘れ物がないよう、必ず確かめるようにさせている。	79.7	77.7

学校での学習や集団生活に関する項目については、前期と比較すると若干下がっている項目が多いですが、おおむね高い評価が見られます。日頃の学校への温かいご理解と子どもたちの成長へのご期待が伺え、教職員一同、更なる努力の必要性を感じています。子どもたちの学力を保障し、今後より学習意欲を高めていくよう、また、子どもたちが仲間と楽しく過ごせる学校づくりについて、指導の工夫・充実が重要と考えます。

家庭での子どもの様子については、No.10の「生活習慣」やNo.11の「朝ごはん」等、子どもたちが学校での学習や、社会生活をしていく上でとても大切な習慣が身につくよう、働きかけていただいている様子がわかります。

生活習慣に関する項目については、No.13・14・15の結果から改善の必要性を例年感じています。家に帰ったらまず宿題等の学習をし、お手伝いをした後、早めの就寝時刻に合わせて残りの自由な時間を過ごすなど、生活リズムの確立をしてほしいと思います。帰宅後の時間の過ごし方については、もう一度ご家庭で話し合っていただき、望ましい生活習慣の確立を図っていただきますようお願いします。

2 児童と保護者による評価結果の比較

(数字は%)

	項目	A	B	C	D
①	児 学校に行くのが楽しい。	59.0	29.3	9.0	2.7
	保 子どもは、楽しく学校にいっている。	61.8	30.3	6.1	1.8
②	児 勉強はよく分かっている。	42.7	45.5	10.0	1.8
	保 子どもは、授業が楽しく分かりやすいといっている。	43.3	35.4	18.1	3.2
③	児 元気のよいあいさつをしている。	56.4	32.1	9.8	1.7
	保 すすんであいさつできるように働きかけている。	64.3	18.0	15.4	2.3
④	児 友だちとなかよくしている。	76.5	18.8	3.6	1.1
	保 子どもは、友だちと仲良く学校生活を送っている。	77.1	16.2	5.5	1.2
⑤	児 忘れ物をしないように気をつけている。	55.6	32.7	8.5	3.2
	保 忘れ物がないよう、必ず確かめるようにさせている。	35.6	42.1	17.6	4.7
⑥	児 家で宿題や勉強をきちんとしている。	65.8	23.1	8.5	2.6
	保 時間を決めて家庭学習や読書をさせている。	26.6	27.7	38.1	7.6
⑦	児 寝る時刻・起きる時刻に気をつけている。	38.9	37.8	14.1	9.2
	保 早ね・早起きの習慣がついている。	48.3	37.3	11.8	2.6
⑧	児 テレビを見る時間やゲームをする時間をきめている。	38.5	23.9	18.8	18.8
	保 テレビをみたり、ゲームをしたりする時間をきめている。	20.6	31.0	37.2	11.2

No.③の「あいさつ」については、ここ数年をかけ、少しずつ改善してきましたが、今年度については少し低い数値となっています。教職員の評価で見ると、半数がマイナス評価となっています。たしかに、廊下ですれ違った時に挨拶をすることはできていますが、昨年と比べるとできている児童が減っています。特に登校してきたときの様子を見ると、挨拶がしっかりできているとは言えない状況です。特に地域の見守り隊の方への挨拶ができておらず残念に思いました。挨拶や返事は人ととの関わりの基本的なことです。さらに、学校でも指導していきたいと思いますが、引き続きご家庭でも子どもたちへの声かけをお願いいたします。

No.⑥の「家庭学習」については保護者と子どものA・Bの評価に大きな違いがあり、下表の教職員による評価も実現度は高くありません。また、No.⑦の「すいみん時間」とNo.⑧の「テレビやゲームの時間」については、保護者、子どもとも、他の項目より評価が低くなっています。この実態を踏まえ、学校では、年間数回の生活リズムチェックや生活アンケートをおこない、子どもたちが自分の生活を振り返る機会をもっていますが、やはりふだんから学習時間や読書の時間、テレビやゲームの時間等をきちんと計画して、規則正しい生活を送ることが大切です。基本的な生活習慣の形成が確かな学力を支える基盤ですので、今後も学校と家庭とが連携しながら取り組んでいきたいと考えています。

3 教職員の評価（学校生活での実現度）（数字は%）【回答母数が少ないので参考に見てください。】

	項目	A	B	C	D
①	子どもは楽しく学校に通っている。	15.0	85.0	0	0
②	子どもの家庭学習が習慣化している。	5.0	60.0	25.0	10.0
③	子どもに読書の習慣が身についている。	5.0	65.0	25.0	5.0
④	子どもは進んであいさつをしている。	5.0	45.0	45.0	5.0
⑤	子どもは望ましい言葉づかいができる。	0	10.0	85.0	5.0
⑥	子どもは学校のきまりや約束を守って生活している。	0	70.0	30.0	0
⑦	子どもは他人を思いやり、親切にしている。	5.0	60.0	35.0	0
⑧	子どもは学校行事に積極的に参加している。	30.0	60.0	10.0	0

前期と比較すると、教職員の評価は下がっています。後期は、行事が多くあったことや年度末のあわただしさもあり、子どもが浮足立ちやすい条件があったと思います。しかし、いつでもどんな時でも正しい事を行うことや友達を思いやることの大切さは変わらないものだと思います。学校としても教職員一丸となって、子どもたちがより良く成長できるよう継続した取組・指導を行っていきます。

子どもたちの実態を、今後より一層高め、次年度以降にもよい習慣として引き継いでいけるような取組を学校と家庭・地域が連携して進められるよう心掛けたいと思います。

4 運営協議会の方々から

- ・学校が楽しい・授業がわかるなどの項目で高い評価が出ており、安心しました。
- ・後期の評価が少し下がっているのは気持ちの緩みなのか、モラルの低下なのか少し心配です。先生方の評価での望ましい言葉づかいができるない子どもたちから感じる時があります。やはり、子どもは大人の背中やメディアなどを基準に成長していくと思います。大人の言葉づかいや行動に心配になることもあります。われわれ大人も子どもへの影響を意識し、行動していかなければならないと思いました。
- ・ゲーム機や携帯電話・スマホなどを使っている時間が決められずダラダラと使っているような現状が見て取れる。その結果、早寝・早起きができず、遅刻や学校での学習にまで影響が出ているのではないだろうか。ルールや約束の決め方や個々の家庭での様子などをぜひ保護者懇談会などで話し合ってほしい。
- ・アンケートの回収率が41.2%と半数に満たないのが気がかりです。学校から声かけをされていると思いますが、まずは80%を目指して、少しでも多くの声を知り良い評価、悪い評価からも見えてくる課題を学校と家庭が共有することが大切ではないかと感じました。